

## 日本ブランド発信事業 —能の魅力を中国で発信—

2016年1月31日

「日本ブランド発信事業」専門家  
映像作家／能研究者 梅若ソラヤ

中国で、能という舞台芸術について発信することは私のかねてからの夢でした。能のルーツにあたる散楽はもともと中国から伝来したものであり、そうした能の源流となる中国の地において、この日本の芸術の魅力を伝えることには、大きな意義があると感じていたからです。幸いにして、2015年の12月、日本ブランド発信事業として、日本外務省・現地総領事館・現地日本大使館のご協力のもと、能やその様式の美や思想を、中国の人々に紹介することができました。



上海戯劇学院での講演とワークショップ

今回は北京と上海を訪れ、大学、戯曲学院、日本学研究センター、日本大使館などの様々な場所で、講演をさせていただきました。聴衆の中には、日本語や演劇を学んでいる学生だけではなく、大学の講師や教授に加え、昆劇や京劇の俳優、作家、映画監督などがおり、多彩な方々に能について発信することができました。

講演の導入部では能の歴史をお話しました。前出の中国との関連に触れながら歴史的な背景を概観したのち、現行曲に見られる唐に関連したテーマの存在とそれらの筋立てを具体的に紹介いたしました。それによって、日本と中国がこの能という奥深い伝統芸能の源を共有しているという認識を深めてもらえたことを実感しています。中国屈指の舞台芸術専門の大学である北京の中央戯劇学院では、この「共有する美の源」という話をした際、場内が暖かい掛け声と拍手とに満たされたことが、今でも鮮明に記憶に残っています。

毎回の講演後に、質疑応答の時間を設けました結果、答えきれないほど多くの質問をいただきました。活発な議論が交わされ、内容の面でも深い示唆に富んだ質問が多く、私にとっても刺激的な時間となりました。例を挙げますと、「黒沢明がなぜ能にインスパイアされたか」であるとか、「能の禪の思想に基づいた抑制が、私の人生にどのような影響を及ぼしたか」、また「現行曲と新作能の違いについて」といった具体的な演目に関する質問もありました。

私の祖父（初代、梅若猶義）が制作した能面を日本から持参し、実際に見せながら、面や装束などについてのプレゼンテーションを行いました。また、能のカマエ（静止の姿勢）とハコビ（歩行）、そして、他にも様々な型に関して体験講座を実施いたしました。体を動かして体験してもらうことによって、能の動きというのが、シンプルに見えて実は非常に高度な動きだということに、多くの方に気づいていただくことができました。参加者はみな、非常に真面目に取り組んでおり、新しい型を目にするたびに喜びの声があがっていた程です。



中央戯劇学院でのワークショップ

中央戯劇学院では、舞踊を専攻する学生に向けて、「翁」という演目の一部の型付（振り付けにあたる）を紹介し、型と動作を覚えてもらったあと、囃子に合わせて舞ってもらうというワークショップを開講しました。一人の学生がその後、「翁」の要素を取り入れた即興のコンテンポラリーダンスを披露してくれるなど、友好的な雰囲気の中で、双方向の新たな文化交流がそこに生まれたという手応えを感じております。

本プログラムでは、能の紹介以外にも昆劇や京劇の演者たちとの交流の機会を得ることができました。同じ古典芸能に携わるものとして、大いに触発されました。京劇の舞台も鑑賞し、袖を活用する所作や、繊細な手の動きは、私にとって新鮮で、多大な刺激を受けました。



京劇の公演

私はこれからも、ドキュメンタリー映画やウェブシリーズなどのさまざまな形での映像制作を続け、さらにソーシャルメディアなどの時代に合わせたメディアを活用することによって、より広く世界に向けて、この奥の深い能という日本文化を発信していきたいと考えております。それにより日本と様々な国を結ぶ架け橋の一端となれることを願っております。日本外務省、現地総領事館と現地日本大使館のご協力に心から感謝いたします。



日中伝統戯劇交流座談会



日中伝統戯劇座談会後の交流

【参考リンク】

[外務省「日本ブランド発信事業」ウェブサイト](#)

[外務省動画チャンネル MOFAchannel | 本事業映像](#)